

千葉県陸上競技選手権大会  
新型コロナウイルス感染拡大防止対策

【大会運営について】

- 密を防ぐため、競技時間を分けて実施する。中学生を午前の部、高校生・一般を午後の部に分けて行こととし、昼に選手・陣地の入れ替え及び消毒作業を行う。
- 手洗い場への選手誘導や消毒活動など、感染防止のための様々な対応が求められるため、競技役員は、午前午後共に審判に当たることとする。(午前だけ/午後だけで競技途中で帰ることが無いようにする。)
- 大会は会場内外問わず無観客とする。(保護者・応援生徒・付き添いの禁止)
- 生徒役員の配置はしない。
- 65歳以上の競技役員の委嘱は原則しない。
- 競技役員は競技役員受付で当日の検温を申告する。
- 全ての大会関係者はマスクを着用する。但し、競技中の選手についてはマスクの着用はしなくても良い。また、熱中症には十分注意する。
- 競技役員は役員証を携行する。
- 引率職員は原則競技場内へ立ち入ることはできない。ただし、学校事情等で引率が必要の場合は、TICにてその旨を伝え、検温・記名の上、引率証を携行する。その際は自陣で待機することとする。
- 競技役員への水分補給は、各自で持参する。お弁当のお茶は提供する。
- 雨天練習場は選手及び競技役員の控え場所とする。荷物の管理は各自で責任を持つこと。コインロッカーは使用可。
- 競技場の換気をするために全ての窓は開放する。
- 大会関係者・選手が使用する各部屋やトイレなどはこまめに消毒をする。
- 雨天練習場の水道に石鹼を用意し、選手、競技役員の手洗い場とする。
- 選手控え場所は、陸上競技場芝生スタンド、陸上競技場周辺(競技場に面したアスファルト上)とする。必ずソーシャルディスタンスを保つこと。メインスタンドは開放しない。
- 記録の発表は、掲示場所を広げて貼り出すようにする。
- 選手は競技終了後、直ちに帰宅すること。
- 多くの選手が使用した用器具については消毒を行う。

【競技運営について】

- 選手は、大会本部より事前に出された健康管理チェックシート兼大会出場承諾書(大会前1週間前の検温と体調チェック)を、大会当日に大会本部に提出する。未提出者については参加することはできない。(提出されたことが確認されたことを受けて1次招集完了とする。)なお、TICでの密を防ぐために、提出は所属団体ごとに一覧票順に重ね、団体代表者がまとめて提出することとする。
- 棄権する場合には棄権届をTICに必ず提出する。(2次招集(現地招集)の作業を簡略化するため。)
- 大会当日の受付の密を防ぐため、大会開催の3日前までに本協会ホームページにスタートリストを掲載し、選手が組・レーン・試技順等を確認できるようにする。
- 招集係はTICからの情報で招集作業を行う。
- 選手は競技中以外はマスクを着用すること。

- 出場選手は、競技時間の15分前に下記の場所に集合する。(ソーシャルディスタンスを意識する)  
トラック競技は腰ナンバーカードを右腰に付けた後、出発係の指示で競技場に入場する。荷物はその場所に置いておく。選手の荷物の運搬は行わない。
- ◇100m・100mH・110mH・400mR 4走 第4ゲート外側
- ◇200m・3000m・400mR 3走 第3ゲート付近芝生
- ◇1500m・400mR 2走 第2ゲート外側
- ◇400m・800m・400mR 1走 第1ゲート外側
- ◇走高跳 走高跳跳躍ピット
- ◇棒高跳 棒高跳跳躍ピット
- ◇走幅跳 走幅跳跳躍ピット
- ◇砲丸投 砲丸投投擲ピット
- トラック競技でスターティングブロックを使用する種目に出場する選手は、設置前に主催者で用意したアルコール消毒液(ジェル)で手指消毒をアルコール消毒する。
- 中学生・一般は腰ナンバーカードは、大会当日に受付時に配布されたものを使用する。所属学校・団体ごとにひとまとめにされ、チェック表とともに袋に入れた状態で配布される。競技終了後には、受付時に配布された袋に入れ、返却枚数を記入の上所属学校・団体ごとにTICへ返却する。
- 高校生の腰ナンバーカードは、個人所有の腰ナンバーカードを使用する。
- 密を避けるため1500m・3000mの1組の人数は1500mは12名、3000mは18名(グループスタート)程度で行う。
- トラック競技はレース終了後、雨天練習場にて洗顔・手洗いをして、スパイクを脱ぎ、正面玄関から退場し、スタート付近に戻り荷物を持ち帰ること。
- 棒高跳・砲丸投で使用する滑り止めは主催者では用意しないので各自で準備する。滑り止めを他人と共有はしない。
- 砲丸投で使用する砲丸は、競技・試技ごとに消毒する。
- リレーで使用するバトンとダッシュマークは、各校で準備し、競技後に各校で回収する。
- 通常の表彰は行わない。賞状については大会終了後、顧問が放送室にまとめて取りに来る。

以上のように感染の可能性を極力避けるために入念な対策で大会運営に臨みますが、それでも100%の感染防止をすとお約束することは難しいと思われま。万が一新型コロナウイルスに感染してしまったとしても、主催者としては責任を負うことはできない点をご了承ください。